

令和 6 年度社会福祉法人三環舎事業報告書

1 利用定員

	あしたば園	夢来夢来	夢来夢来
就労移行支援		8	
就労継続支援 B 型	20	20	
自立訓練	6		
生活介護	14		
就労定着支援			11
計	40	28	11

- 2 職員数** あしたば園 20 名（常勤換算 17 人）
 夢来夢来 20 名（常勤換算 16 人）
 あさひが丘 9 名（常勤換算 5 人）
 あまみ就業・生活支援センター 4 名（常勤換算 3.8 人）
 チャレンジドサポート奄美 7 名（常勤換算 6.6 人）
 計 60 名（常勤換算 48.4 人）（R7.3.31 現在）

3 主な実績等

①通所者数										
	あしたば園				夢来夢来				あさひが丘	
	就労B型	自立訓練	生活介護	小計	就労移行	就労B	小計	就労定着	共同生活	短期入所
定員	20	6	14	40	8	20	28	11	13	1
4月	22.5	2.0	15.3	39.8	7.5	15.0	22.5	8.0	11.6	1.5
5月	21.1	2.0	13.5	36.6	6.5	13.3	19.8	8.0	11.3	1.5
6月	21.9	2.2	15.3	39.4	6.2	12.9	19.1	8.0	11.4	2.1
7月	20.7	1.7	14.6	37.0	6.7	14.3	21.0	8.0	10.0	1.9
8月	21.7	1.7	13.3	36.7	4.4	11.9	16.3	8.0	10.6	0.9
9月	22.1	2.1	14.2	38.4	4.5	13.3	17.8	8.0	11.6	1.4
10月	21.6	2.0	14.1	37.7	5.0	15.9	20.9	6.0	11.5	1.4
11月	21.2	2.0	14.0	37.2	5.4	15.3	20.7	5.0	11.5	2.0
12月	20.2	1.5	12.7	34.4	3.8	14.2	18.0	7.0	10.3	1.2
1月	21.3	1.7	15.3	38.3	4.3	14.0	18.3	8.0	10.2	1.0
2月	20.1	2.1	14.5	36.7	4.1	13.3	17.4	8.0	10.7	2.0
3月	21.5	2.2	15.7	39.4	4.3	15.0	19.3	7.0	11.1	1.3
月平均	21.3	1.9	14.4	37.6	5.2	14.0	19.3	7.4	11.0	1.5
)工賃(4月～3月)		総額		21,677,895円						
	あしたば園						夢来夢来			
	就労B		自立訓練		生活介護		就労移行		就労B	
総額	9,972,735		402,870		1,346,240		1,781,130		8,174,920	
平均利用者数	21.3		1.9		14.4		5.2		14.0	
平均月額	39,016		17,669		7,790		28,543		48,660	

4 活動の内容と成果

令和6年度はコロナウイルス感染症が小康して5類となり、徐々に活動を再開することができた。

重点事項に対する取り組みは、次のとおり

- ① グループホーム「みどりが丘」の施設整備申請を行い、補正予算で国・県の施設整備補助金が決定した。
- ② 重点的に口腔衛生指導を行い、歯磨きのチェックと毎月の歯ブラシ交換を行った。また保健所の歯科衛生士による指導、歯科検診、全体ミーティングで歯科医師による歯や歯周病に関する講演会を実施した。
- ③ ヤマト福祉財団の菓子販路拡大研究会に参加。全国10か所の事業所と共に学びを行っている。2月はあしたば園を訪問していただき、様々な指摘や提案をいただいている。
- ④ 大島地区知的障害者関係施設の職員合同研修会を主幹、南高愛隣会より講師を招聘し「ふつうの場所で愛する人との暮らしを」のテーマで研修会を行った。参加者103名
- ⑤ 保護者参観週間はコロナの影響もあり実施できなかった。
- ⑥ 就職者は5名であった。
- ⑦ 隔月の全体ミーティングで各委員会を行った。(①感染症食中毒対策・健康増進委員会②虐待・身体拘束防止、苦情解決委員会③ホームページ・商品開発委員会④安全運転・防災委員会⑤ライフログ委員会⑥エコ委員会)
- ⑧ ジョブメドレーアカデミーと契約をし、職員研修の充実を図ったが、あまり活用されず解約に至った。
- ⑨ 給与体系の見直しと職員の処遇改善を行った。また、パート職員の時給の改善を行った。
- ⑩ 利用者へのアンケート、職員の要望・提言調査を行った。

あしたば園

- ① 口腔衛生指導の取り組み（歯磨き時、職員が見守り、歯ブラシの衛生管理徹底、歯科検診の実施、歯科衛生士による歯磨き指導）はできるようになった。
- ② 移動販売の再開（笠利、住用、大和村、看護福祉専門学校）
- ③ 工賃向上の取り組み
 - ・委託作業（和光園の年間通して週2回の草刈り作業）
 - ・多肉植物の栽培と植木鉢製作
 - ・加工品販路拡大事業助成金（奄美市）を活用して島じゅうりの新パッケージを作成
- ④ 余暇活動の充実
 - ・講師を招いて音楽療法とヨガ（各月2回）を行った。
 - ・体力づくりのため、積極的に散歩に出かけた。
 - ・喫茶レクの再開
- ⑤ 地域との交流
 - ・地域行事にあしたば太鼓出演
 - ・地域貢献として、散歩時周辺のゴミ拾い
- ⑥ 自立訓練のカリキュラム構築
- ⑦ 就職者1名

《製造班》

製造班は、「ラスク及び菓子製造」、「島じゅうり」の二班で活動している。

ラスク及び菓子製造班は、希少糖ケーキ、あまみ気分を中止し、ショコラケーキを新発売。ラ

スク、おからクッキー、クッキーシューとチーズケーキ、シフォンケーキ、クリスマスのケーキの生産を行っている。また、利用者の誕生日には、バースデイケーキをプレゼントしている。

島じゅうり（加工場）では、郵便局が鶏飯の販路を拡大してくださり、生産に追われることもあった。売り上げが前年比 109%となり、工賃向上に貢献した。パン、ラスク・ケーキで 908 万円（前年度比△18 万円）島じゅうり 2,202 万円（+187 万円）

《委託作業》

和光園の草刈り作業を受託し、その他官公庁の選定作業や墓掃除へも取り組んだ。245 万円（+35 万円）。名刺印刷 59 万円（+9 万円）にも取り組み、官公庁よりの受注を行っている。

《生活介護》

日々、障がい特性に合わせた軽作業を行っている。コロナ禍で中断した喫茶レクや遠出版売は利用者さんの楽しみでもあり、後半に再開することができた。スヌーズレンの活動も継続。スヌーズレンルームで一時的ないらだち、不安感の解消など利用者のリラクゼーションにも取り組んでいる。

新たに開始した音楽療法やヨガも楽しんでいる。

夢来夢来

- ① 就職者は 4 名
- ② 利益向上のため、新作パンの製造、SMS による宣伝などを行ったが、職員の交代などにより売り上げが減少した。
- ③ 自動釣銭機とスマレジの操作にも慣れ、利用者のレジ操作ができるようになった。
- ④ ワックス掛けの再開を行った。

《製造班》

パン製造班は、徐々に力をつけている。パン製造販売 2,498 万円（△84 万円）。毎日、パンの残りを集計しながらパンの製造を試みたが、数字には結びつかなかった。又、パンの追加焼きをする体制が出来ていなかった。

《販売班》

店舗では元気よく対応し、お客様に親切なお店として好評で、1 日平均 150 名近くのお客様に対応している。また移動販売班では、販売先の見直しを行い、和光園、市役所、老人施設他たくさんの場所で移動販売を行っていたが、後半は夢来夢来テラス開所の準備もあり、週 2 回の移動販売となった。感染症対策と、移動販売先のお客様の配慮で、引き続き販売を行うことができている。

《喫茶・ランチ班》

原材料が値上げとなり、弁当の量の見直しを行った。又、全体的にメニューの見直しも行った。弁当 1,093 万円（△13 万円）、喫茶 452 万円（+55 万円）

《清掃班》

サービス付き高齢者住宅「ゆとりあん」の清掃作業、退所時清掃、ワックスがけを通して、作業スキルを身に付け一般就労への力をつけている。

- ・幸栄パチンコ店ワックスがけ（月 1 回）、ワックス剥離作業（年 1 回）
- ・事業所のワックスがけ（月 1 回）の予定で、だいたい出来ていた。

《奄美市食の自立支援事業》

奄美市が行う訪問給食サービスの委託を受け在宅の高齢者に対して、温かい食事を配食することにより、栄養の改善や、安否の確認等を行っている。新規の利用者も増えて

いる。

《厨房班》

むかいクリニックの厨房で食器洗浄、仕込み、盛り付けなどを行い、スキルアップに役立っている。

《就労支援》

就職への意欲は高く、就職者4名 実習延べ6名であったが、それぞれ力をつけている。

《その他の取り組み》

余暇活動としてあしたば太鼓やダンスを行っている。

グループホーム「あさひが丘」(介護サービス包括型共同生活援助)

サービス管理者1名、生活支援員3名、世話人4名、宿直3名(内職員兼務2名)

入居定員 ・あさひが丘 共同生活援助7名 短期入所 1名

・みどりが丘 共同生活援助6名

《利用実績》

●共同生活援助(入所者)

月	あさひが丘 (6部屋)	みどりが丘 (6部屋)
4月	6名	5名
5月	6名	5名
6月	6名	5名
7月	6名	5名
8月	6名	6名
9月	6名	6名
10月	6名	6名
11月	6名	6名
12月	6名	6名
1月	6名	6名
2月	6名	6名
3月	6名	6名

●短期入所(ショートステイ)

月	あさひが丘 (2枠)	みどりが丘
4月	7名(29日)	1名(17日)
5月	7名(34日)	1名(10日)
6月	7名(34日)	1名(29日)
7月	6名(31日)	1名(31日)
8月	3名(28日)	
9月	6名(43日)	
10月	6名(44日)	
11月	8名(58日)	
12月	7名(40日)	
1月	5名(32日)	

2月	7名(57日)	
3月	6名(40日)	

《サービス内容》

☆主として夜間において、共同生活を営むべき住居における相談、入浴、排せつ、又は食事の補助、その他の日常生活上の援助を実施

☆利用者の就労先又は日中活動サービス等との連絡調整や余暇活動等の社会生活上の援助を実施

☆利用者個々人の特性に合わせた支援を行うと共に、利用者や家族の将来を見据えた共同生活援助、短期入所サービス利用の促進を行った。

あまみ障害者就業・生活支援センター

《支援実施状況》（令和7年3月31日現在）

□登録状況（性別）

区 分	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計（人）
男 性	31	62	56	2	151
女 性	13	39	36	3	91
合 計	44	101	92	5	242

□登録状況（現状別）

区 分	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計（人）
在職中	29	71	31	3	134
求職中	11	27	48	2	88
その他	4	3	13	0	20
合 計	44	101	92	5	242

□実習・就職件数

区 分	身体障害	知的障害	精神障害	その他	合計（件）
職場実習	1	4	6	0	11
就 職	2	4	5	0	11

登録者における男女比は、男性が64％、女性が36％で、障害別では、概ね身体障害者18％、知的障害者42％、精神障害者38％、その他2％となっている。昨年度から、障害優先から手帳優先となったため、その他の割合が減り、精神障害者の割合が増えている。また、登録者における在職者の割合は、約55％である。

実習（20件→11件）、就職（20件→11件）とも目標を下回った。

主な実習先や就職先としては、福祉施設や病院での調理補助や清掃、スーパー等での品出し等あまり変わりはない。

《障害者就業開拓推進員の配置》

県雇用労政課の非常勤職員として、障害者就業開拓推進者が1名駐在し、求人開拓や雇用関係情報の収集などの業務に従事して頂いた。（平成26年度から継続）

《離島訪問等》

概ね当初予定回数離島訪問することができた。それにより関係機関との情報共有や登録相談会、事業所開拓等を行うことで実習や就職支援、定着支援、生活支援に繋がった。また、本島内6地区でも9月に登録相談会を開催した。

【離島における訪問回数】

(喜界島) 3回 (徳之島) 3回 (沖永良部島) 3回 (与論島) 3回

《在職者交流会》

在職者を対象にした交流会を3回実施し、就労面や対人関係等の悩みなどを共有した。
課題の解決や就労意欲のモチベーションの維持を図ることで定着につながっている。

第1回 日時：令和6年6月29日(土) 13:00-16:00

場 所：名瀬公民館

講 師：奄美警察署交通課 半崎氏

テーマ：交通安全のためのルールやマナーについて

「奄美少年自然の家にて折り染めうちわ作成」

参加者：10名

第2回 日時：令和6年10月26日(土) 13:30-15:30

場 所：奄美市社会福祉センター4階会議室

講 師：センター職員、チャレンジドサポート奄美向井春香氏

テーマ：働く女性の悩みについて

「ビーズを使ってブレスレットづくり」

参加者：5名(女性対象)

第3回 日時：令和7年3月22日(土) 10:15-14:00

場 所：奄美市社会福祉センター4階会議室

講 師：センター職員

テーマ：今年度の振り返りと新年度の意気込みについて

「陸上自衛隊奄美駐屯地見学」

参加者：19名

《ピアサポート交流会》

センターの概要説明を行い、その後ピアサポーターの講話、参加者との意見交換を行った。

日 時：令和6年11月27日(水) 13:30-14:30

場 所：奄美市社会福祉センター4階会議室

講 師：ピアサポーター 元 俊智氏

参加者：就労移行支援事業所等に通所しているセンター登録者等 9名

《障害者支援担当者交流会》

障害者雇用をされている企業担当者を対象に、当センターの活動状況の説明や講師による講和、意見交換を行った。

第1回 日 時：令和6年9月19日(木) 13:30-15:00

場 所：オンライン開催

講 師：鹿児島障害者職業センター 主任カウンセラー 瓜生 彰氏

テーマ：職務の切り出し方について

参加者：12社17名

第2回 日 時：令和7年3月14日(金) 13:30-15:00

場 所：オンライン開催

講 師：センター職員

テーマ：中高年齢者の継続雇用について、意見交換

参加者：6社8名

《関係機関との連携》

地域で開催される各会議にオンライン等で参加し、センターの周知を図り、就労支援の為にネットワーク作りを強化することで、連携体制を築いた。

○奄美地区地域自立支援協議会

(全体会、運営委員会、定例会、就労部会、精神部会)

○大島地区就労ネットワーク会議(1回 オンライン開催)

○鹿児島県障害者就業・生活支援センター連絡会(2回うち1回はオンライン開催)

○鹿児島県障害者就業・生活支援センター業務担当者会議(5回うち3回はオンライン開催)

○九州・沖縄ブロック別経験交流会議(オンライン)

○大島養護学校(出張講座等)

○我がごと丸ごと支え愛事業(瀬戸内町)

《会議開催》

○障害者就業・生活支援センター連絡調整会議

障害福祉サービス事業所や相談事業所、行政機関、教育機関、ハローワークの担当者等に対し、センターの活動状況を説明した。

また、県立大島特別支援学校、独立行政法人高齢・障害・求職者支援機構鹿児島支部から活動内容などの情報提供を頂いた。

日時：令和7年2月25日(火) 13:15-16:00(ネットワーク会議含む)

場所：オンライン開催

参加：41機関49名 ※第1回大島地区就労ネットワーク会議と共催。

指定特定相談支援事業所 チャレンジドサポート奄美

- ① 相談支援業務充実のため、他の事業所と提携を組み、週1回事例検討や情報交換を行い質の向上、人材育成を図った。
- ② もぐもぐ外来は、年4回、名瀬徳洲会病院で行うことになった。
- ③ 心理士に週2日勤務していただき相談に対応、学校からの申し込みが多く、支援に役立ていただき、学校・教育委員会との連携がよくとれている。
- ④ アスペルゲドの会主催「ICTを活用した子どもの行動評価に基づく個別支援計画作成と障害児相談支援システムの開発と仕組みづくり」事業(日本財団助成事業)に協力、参加。
- ⑤ ペアレントプログラムの認定講習を行った。(辻井正次先生)
- ⑥ 保育所などでの運動遊び支援の要望も多かった。
- ⑦ 思いやりネットワーク事業(社会貢献事業)は4件の依頼があり、実施した。

常勤専従の主任相談支援専門員を配置し、当該事業所及び地域のその他の相談支援事業所の従業者の資質向上のため助言・指導を実施し、自立支援協議会に定期的に参画し、関係機関との連携の緊密化を図る

管理者及び主任相談支援専門員1名 相談支援専門員 5名 看護師 1名
(現任研修修了者 6名)

1 計画相談実績

月	利用計画作成(請求分)	モニタリング(請求分)
4月	9	72
5月	74	92

6 月	32	47
7 月	5	55
8 月	38	80
9 月	17	49
10 月	16	48
11 月	29	62
12 月	22	40
1 月	11	88
2 月	26	36
3 月	7	33
計	286 件	702 件

2 障害児等療育支援事業実績

① 在宅支援訪問療育支援事業（ 123 件）

- ・小児神経専門外来、発達療育相談
- ・県立大島病院 2 回、奄美市 2 回
- ・心理士相談（ 113 回） 発達検査 82 件実施（含市町村障害児相談事業）
臨床心理士・公認心理士 西留氏
学校心理士・公認心理士 中島氏
- ・もぐもぐ相談（鹿児島大学小児歯科 佐藤医師）4 回

② 施設支援一般指導事業（ 67 件）

療育施設、保育所、幼稚園、学校、大島養護学校などからの申し込みを受け、専門スタッフを派遣して、療育に関する技術向上に向けての助言や支援を行った。喜界町、徳之島町、与論町にも支援に伺っている。

- ・発達障害地域支援専門員 大山氏・向井氏
- ・療育指導相談員 當島氏
- ・聖隷福祉事業団 保育士 座安氏、赤塚氏
- ・にこぴあ 言語聴覚士 法氏
- ・ニョッキ 言語聴覚士 里氏
- ・鹿児島大学小児歯科 佐藤医師、橋口医師
- ・そらまめキッズ 平原氏
- ・社会医療法人天陽会中央病院 言語聴覚士 松永氏
- ・臨床心理士 西留氏

③ 障害者親の会

- ・就学児親の会（1 回）
- ・ダウン症親の会（1 回）

④ペアレントプログラムの実践（0 回）保健師が行うようになった。

⑤ 鹿児島県子ども療育センターのコーディネーター会議への参加 （リモート 9 回、現地 3 回）

3 会議への参加

○奄美地区地域自立支援協議会 相談支援部会（毎月） 運営委員会 子ども部会
主任相談支援会議